

コード No.

提出日：令和 3 年 8 月 30 日

## 令和 2 年度「コミュニティ・キッチン&ガーデニング」報告書

特定非営利活動法人 CODE 海外災害援助市民センター  
立部知保里

### 1. プログラムの目的

#### ■目的

フィリピン・サンタフェ町の漁村の住民組織による、食を通じた助け合いのアクションを後方支援することで、コロナ禍で困窮した住民たちの食生活および家計を支える。また、救援物資をもらうことが一般的にとらえられている対象地において、住民組織のメンバーが自ら食をつくり出し、支え合う意識を持つようになる。

#### ■新型コロナウイルス禍での対象地・対象者の状況

対象地域であるサンタフェ町はビーチリゾートによる観光産業に支えられている。しかしながら、新型コロナウイルスの影響で一時は観光業がすべてストップし、また、観光業の再開後も町に観光客はほとんどいない。観光業の停滞は、本プログラムの対象者である漁師たちの生活にも大きな影響を及ぼしている。コロナ禍でも漁業自体は継続できているものの、卸先のレストラン、リゾート施設、ゲストハウスなどに客がいないために売れ行きが悪く、魚の価格も下落している。また、漁師やその家族たちは、もともと観光客向けのドライバー業や、観光施設の建設現場の仕事など、漁業以外の仕事から多角的に収入を得ているが、それらも観光客がいないために停止しており、収入源が絶たれている。

新型コロナウイルスの影響に加えて、季節的な漁獲量の減少が漁師たちの家計をさらに圧迫している。雨期の天候不良や、台風が多数上陸したことにより、海が荒れて漁に出られない日が続いている。漁師たちはその日その日の収入で生活しているため、漁に出られない中で生計を維持することは大変厳しい状況である。

フィリピン政府は困窮世帯に給付金を支給しているが、困窮していても支給リストから外れてしまっている世帯もある。また、地方政府が緊急支援として食料や物資を提供しているが、家族の人数に対して不足しており、支援が十分にいきわたっていない。

### 2. 主な活動内容・スケジュール

#### ■活動の概要

- フィリピン・サンタフェ町の漁村の住民組織による、以下の二つのアクションを支援する。
- ・コミュニティ・キッチン：住民組織のメンバーで共同調理し、集まって食事をしたり配食したりする。
  - ・コミュニティ・ガーデニング：住民組織のメンバーで自宅に菜園を作り、野菜を育てる。

#### ■事業実施体制

実施主体：サンタフェ町にある 2 地区の住民組織

① POSFFA (Poc Small Fisherfalks and Farmers Association) (地区：バランガイ・ポオック)

## ② ORWA (Okoy Rural Workers Association) (地区：バランガイ・オコイ)

サポート、モニタリング：現地 NGO

FIDEC (Central Visayas Fisherfolk Development Center)

支援対象：計 83 世帯

POSFFA メンバー 48 世帯

ORWA メンバー 35 世帯

## ■活動の具体的内容

## 【コミュニティ・キッチン】

POSFFA と ORWA でそれぞれ 3 グループに分かれて共同調理と会食を実施した。メンバー内でボランティアを募り、献立決めや買い出し、調理を行い、子どもたちを含めたメンバーの家族で集まって食事をした。

ただし、2021 年 4 月以降、新型コロナウイルスの感染が拡大したことから人が集まる活動に制限が生じ、コミュニティ・キッチンでの共同調理・共同での食事が難しくなった。そのため、4 月以降は米の提供に活動を切り替えることで、対象者への食を通じた経済面、健康面の支援の継続を図った。

## 実施スケジュールとメニュー

## (POSFFA)

日にち	グループ	メニュー
2月5日	グループ1	豆と肉の煮物、ご飯
	グループ2	焼きそば、スープ、豆の煮物、ご飯
	グループ3	豚肉の煮物、豆の煮物、魚の煮物、ご飯
2月13日	グループ1	肉と野菜の煮物、ご飯、バナナ
	グループ2	肉と野菜の煮物、豆の煮物、ご飯
	グループ3	肉と野菜の煮物、ご飯
3月8日	グループ1	肉と野菜のトマト煮、豆の煮物、焼きそば、ご飯
	グループ2	豆の煮物、焼きそば、ご飯
	グループ3	肉と野菜のトマト煮、豆の煮物、ご飯
3月20日	グループ1	豆と肉の煮物、ご飯
	グループ2	肉と野菜の煮物、ご飯
	グループ3	焼きそば、ご飯

## (ORWA)

日にち	グループ	メニュー
2月6日	グループ1	豆の煮物、焼きそば、魚肉ハンバーグ、春巻き
	グループ2	野菜スープ、魚肉ハンバーグ
	グループ3	魚肉団子入り焼きそば、豆の煮物
3月1日	グループ1	肉と野菜の煮物、豆の煮物、焼きそば、ご飯

	グループ 2	肉と野菜の煮物、焼きそば、ご飯
	グループ 3	肉と野菜の煮物、豆の煮物、ご飯
3月9日	グループ 1	肉と野菜の煮物、ご飯
	グループ 2	肉と野菜の煮物、ご飯
	グループ 3	肉と野菜の煮物、ご飯
3月21日	グループ 1	肉と野菜の煮物、ご飯
	グループ 2	肉と野菜の煮物、ご飯
	グループ 3	肉と野菜の煮物、ご飯

#### 【コミュニティ・ガーデニング】

種や有機肥料を購入し、住民組織の各世帯で菜園を作って野菜を育てた。育てた野菜は、空心菜、オクラ、さやいんげん、ナス、ゴーヤ、チリ。2021年2月より栽培を開始した。

#### 3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）

##### 【コミュニティ・キッチン】

調理や食事の様子。女性たちが中心となって準備し、子どもたちを中心にメンバー内の家族たちが集まって食事をとった。





### 【コミュニティ・ガーデニング】

各家庭で育てている野菜と、住民組織の女性たち。どの家庭も広い畑があるわけではないので、家の敷地の限られたスペースに植えたり、プランターにバケツや土嚢袋を活用するなど、工夫しながら育てている。



## 4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

### ① 経済的な負担の軽減

本プログラムを通じて、2つの住民組織の計83世帯に支援を届けることができた。食事や野菜栽培の機会を提供したことで、コロナ禍で困窮している各家庭の家計の負担を軽減することができた。参加した住民組織のメンバーからは「コロナで今は仕事が大変厳しい状況なので、今回の支援はとてありがたい」（ORWA、20代女性）との声が寄せられた。また、「世界中のみんながパンデミックで困難にある中、私たちを支えてくれて感謝している」（ORWA、30代女性）との声もあり、今回の支援が「世界中が大変な中でも私たちはあなたのことを気にかけている」というメッセージを届けることにもなったのではないかとと思われる。

### ② 栄養摂取と健康維持

もともと経済的に厳しい漁村の家庭では、さまざまな食材を調達するのが難しく、日によっては例えばご飯と干魚だけの食事ということもある。本プログラムを通じて肉や魚、野菜を取り入れた食事、および野菜栽培の機会が提供されたことで、子どもたちを含めた対象者の健康維持に寄与することができた。このことは、免疫力を高めて感染症を予防するためにも重要である。参加した住民組織のメンバーからは「子どもたちや家族に栄養のある魚や野菜を食べさせられてうれしい」（ORWA、30代女性）との声が寄せられた。

### ③ 女性のエンパワメントと主体性の獲得

本プログラムを中心になって進めたのは、住民組織の中でも女性のメンバーたちであった。プログラムを通じてメンバー同士で協力して活動をしたことで、女性たちの主体性やリーダーシップが促進され、女性たちがコミュニティに貢献しているという意識を持つことにつながったと考えられる。また、当初住民たちの間では、災害時などの緊急支援では政府や外部支援から食糧・物資を提供してもらおうというのが一般的にとらえられていた。しかしプログラムを通じて野菜を育てたり食事を自分たちで調理して提供するという経験をしたことで、食べるものをよそから買ったり与えてもらうばかりではなく、自分たちでつくるという意識の醸成にも寄与できたものと考えられる。

### ④ 家族を超えた支え合いの意識の醸成

住民組織のメンバーらは普段、地域の祭りやお祝いごとなど特別な機会がない限り、家族以外の人たちと食事をする機会はあまりない。本プロジェクトで住民組織のメンバー同士で集まって調理や食事をしたことは新しい経験となり、家族を超えたメンバー間の支え合いや協働の意識が醸成されたと考えられる。プログラムに協力してもらった現地 NGO FIDEC のカウンターパートは、「この取り組みは感染症下や災害時だけでなく、平時の漁業の収入が減って困窮した時などにグループで助け合うためにも重要だ」と評価している。

## 5. 今後の課題

上述したように、新型コロナウイルスの感染状況がより一層厳しくなってからは、コミュニティ・キッチンでの共同調理・共同での食事が難しくなり、食料（米）の提供へと活動を切り替えざるを得なくなった。感染の状況を見ながら、住民組織のメンバーとカウンターパートの NGO とともにその段階でできることを模索し、活動を工夫していくことが求められる。いまだに日本から現地へ渡航することは難しい状況が続くため、カウンターパートの NGO と遠隔での連携を継続していくことが必要である。

プログラム対象の漁師らは、平時から気象条件や長期的な気候変動などの影響を受け、安定した漁獲量、つまり安定した収入が見込めない中で仕事をしている。新型コロナウイルスの状況が改善したとしても漁業の不安定な状況は続くと思われ、長期的に生計を向上していくための活動が求められる。現地 NGO FIDEC のカウンターパートが指摘するように、本プログラムで醸成されたメンバー間の支え合いや協働の意識、女性たちのリーダーシップを、今後の活動の中で生かしていくことが重要である。